

高齢者虐待防止のための指針

東成瀬村社会福祉協議会
指定居宅介護支援事業所

目 次

- 1, 事業所における虐待の防止に関する基本的考え方
- 2, 虐待防止検討委員会の組織について
- 3, 虐待防止のための職員研修に関する基本方針
- 4, 虐待が発生した場合の対応方法について
- 5, 虐待等が発生した場合の相談・報告体制について
- 6, 成年後見制度の利用支援について
- 7, 虐待等に係る苦情解決方法について
- 8, 利用者等に対する当該指針の閲覧について
- 9, その他虐待防止の推進について

1, 事業所における虐待防止に関する基本的考え方

(1) 目的

当事業所は、「高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律」（平成17年法令第124号、以下「高齢者虐待防止法」という。）の実効性を高め、利用者の尊厳の保持・人格の尊重が達成されるよう本指針を定める。

(2) 高齢者虐待の種類

高齢者虐待とは次のいずれかに該当する行為をいう。

① 身体的虐待

高齢者の身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴力を加えること。

② 心理的虐待

高齢者に対する著しい暴言または著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。

③ 経済的虐待

養護者または高齢者の親族が当該高齢者の財産を不当に処分することその他当該高齢者から不当に財産上の利益を得ること。

④ 性的虐待

高齢者にわいせつな行為をすることまたは高齢者を脅してわいせつな行為をさせること。

(3) 虐待に対する「自覚」は問わない

利用者本人や養護者の虐待に対する自覚の有無にかかわらず、客観的に利用者の権利が侵害されていると確認できる場合には、虐待の疑いがあるものと捉え対応する。

(4) 利用者の安全を最優先する

高齢者虐待に関する通報等の中には、利用者の生命に関わる緊急的な事態もあると考えられ、そのような状況下での対応は一刻を争うことが想定される。入院や措置入所等の緊急保護措置が必要な場合には、養護者との信頼関係を築くことができないときでも利用者の安全確保を最優先とする必要がある。

(5) 常に迅速な対応を意識する

高齢者虐待の問題は、発生から時間の経過に従い虐待が深刻化することが予想されるため、通報や届け出がなされた場合には迅速な対応に対応することが求められる。

(6) 組織的に対応する

高齢者虐待の事例に対しては、担当者だけの判断で対応することを避け、組織的な対応を行うことが重要である。

相談や通報、届出を受けた職員は、早急に虐待対応の担当者および地域包括支援センターに相談し、相談等の内容や状況から緊急性を判断するとともに、利用者の安全や事実確認の方法、援助の方向などについて組織的に判断する必要がある。

特に、利用者の安全や事実確認のための調査においては、担当者への過度の負担を避け、また客観性を確保する等の観点から複数の職員で対応することを原則とする。

(7) 関係機関と連携して援助する

複合的な問題を抱える事例に対しては、問題への対応機能を有した機関との連携が不可欠であり、地域包括支援センターが構築する「高齢者虐待防止ネットワーク」を活用することが有効である。

(8) 記録を残す

高齢者虐待の対応に関する会議や当事者とのやりとりを全て記録に残し、適宜かつ組織的に対応状況を共有する。対応如何によっては個人の生命に関わる事態に発展する可能性があり、対応の決定にあたっては担当者のみならず組織としての実施を徹底することが重要である。

記録を残し説明することは、事後の検証や権限行使等を伴う虐待への対応において不可欠である。

2, 虐待防止検討委員会の組織について

虐待防止・早期発見に加え、虐待が発生した場合はその再発を確実に防止するため「虐待防止委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(1) 委員長の役割

委員長は事業所の管理者が務め、委員会の運営と指導を行う。

(2) 開催頻度

委員会は年度内に1回以上開催し、必要に応じ臨時会合を実施する。

(3) 他会議との一体的な設置・運営

他会議体と一体的に委員会を設置し、効率的に運営する。

(4) 他サービス提供事業者との連携

他サービス提供事業者と協力し、広範囲な視野での虐待防止策を検討する。

(5) 遠隔会議システムの利用

オンライン遠隔会議システム(テレビ電話等)を使用し、会議への参加を促進する。

(6) 検討事項

委員長は以下の事項について検討し、その結果は従業者に周知徹底を図る。

- ・ 虐待防止検討委員会その他事業所内の組織に関すること
- ・ 虐待防止のための指針の整備に関すること
- ・ 虐待防止のための職員研修の内容に関すること
- ・ 虐待等について従業者が相談・報告を行うことができる体制の整備に関すること
- ・ 従業者が虐待を発見した場合に、市町村への通報が迅速かつ適切に行われるための方法に関すること
- ・ 虐待等が発生した場合、その原因等の分析から得られる再発の確実な防止策に関すること
- ・ 再発の防止策を講じた際に、その効果についての評価に関すること

3, 虐待防止のための職員研修に関する基本方針

虐待防止のための職員研修は、従業者に対して虐待の防止に関する基礎的内容と適切な知識の普及・啓発を目的とする。当該研修は、当事業所の指針に基づき虐待防止の徹底を図ることを目標とする。

(1) 研修プログラムの作成

本指針に基づいた研修プログラムを組織的に作成し、職員教育の徹底を図る。当該研修は、虐待の各種形態、その兆候の認識、適切な対応方法、法的背景と責任に関する内容を含む。

(2) 定期的な研修の実施

全ての職員は、年度内に1回以上参加し研修を受ける。当該研修は職員の知識とスキルを更新し、虐待防止に関する意識を高めるため重要である。

(3) 新規採用者への研修

新規採用される職員を対象に、入職時に虐待防止研修を実施する。これにより新たな職員も事業所の虐待防止方針を理解し、実践する能力を身に付ける。

(4) 研修の記録

研修の実施内容、日程、参加者等を記録する。

4, 虐待等が発生した場合の対応方法について

虐待等が発生した場合に対応するため、以下の基本方針を定める。

(1) 迅速な報告

虐待が疑われる場合、職員は高齢者虐待防止法に基づく通報義務を順守し、直ちに管理者や指定された担当者に対し報告を行う。同時に、地域包括支援センターに通報する。

(2) 事実確認の協力

地域包括支援センターによる事実確認に対し、全面的に協力する。これには関係者の面接や証拠の収集などが含まれる。

(3) 被虐待者の保護

虐待が確認された場合、被虐待者の安全確保と心理的サポートを最優先に行う。必要に応じ医療介護サービス等を追加提供する。

(4) 養護者の支援

養護者により虐待が行われた場合、養護者もまた支援を必要としている可能性があることを認識し、適切な支援を検討する。検討においては介護疲れ、経済的・医療的課題など、虐待の背景にある複数の要因を考慮する。

(5) 虐待者が職員の場合

虐待者が職員であることが判明した場合は厳正に対処する。これには、必要に応じ懲戒処分や法的措置の実施も含まれる。

5、虐待等が発生した場合の相談・報告体制について

虐待等が発生した場合に対応するための明確な相談・報告体制を整備し、職員および利用者が安心して相談や報告ができる環境を提供する。

(1) 相談窓口の設置

虐待に関する相談や報告を行うための専門窓口を設置し、職員や利用者が安心して相談・報告を行えるようにする。

(2) 報告内容の適切な扱い

報告された情報は慎重に取り扱い、個人情報の保護に配慮しながら適切に管理する。

(3) 報告者へのサポート

報告者に対し適切なフォローアップおよびサポートを提供し、報告による不利益が生じないよう配慮する。

6, 成年後見制度の利用支援について

判断能力の不十分な高齢者の権利擁護のため、成年後見制度について利用者や家族に情報提供を行うとともに、適切な窓口を案内する。

7, 虐待等に係る苦情解決方法について

虐待やその疑いに関する苦情に対応し適切に解決するため、以下の体制を確立する。

(1) 苦情受付窓口の設置

虐待に関する苦情の受付を行う専用窓口を設置する。当該窓口は利用者が自由に利用でき、安心して利用できる環境で運営される。

(2) 苦情への迅速な対応

受付を行った苦情に対し迅速に対応し、事実関係の調査を行う。必要に応じ適切な対応や措置を講じる。

(3) 透明性の確保

苦情の処理過程は透明性を確保し、個人情報に十分配慮した上で利用者や職員に適宜情報を提供する。

(4) 解決策の検討と実施

苦情に基づき適切な解決策を検討し、必要に応じ実践する。これには職員の再教育および業務プロセスの見直し、他の適切な措置を含む。

(5) 苦情処理の記録と評価

苦情の処理過程と結果を記録し、これを基に虐待防止のためのシステムプロセスの改善を図る。

8, 利用者等に対する当該指針の閲覧について

本指針を事業所内に掲示すると共に事業所のホームページに掲載することによりいつでも利用者や家族が閲覧できるようにする。

9, その他虐待防止の推進について

当事業所における高齢者虐待防止の取り組みは、その重要性和緊急性を鑑み、管理者が専任担当者として責任を負う。

管理者は、虐待防止のための全ての活動の監督、調整および実施を担当し、職員への研修、報告体制の整備、対応策の策定等、虐待防止に関連する全ての事項について主導的な役割を果たす。

附則

この指針は、令和6年4月1日より施行する。